

CO₂排出少ないレジ袋

ユニクロや
a m / p m 従来品の半分以上

ファーストリテイリング傘下のカジュアル衣料専門店ユニクロと、コンビニエンスストアのイーエム・ピーエム・ジャパン(a m / p m)が相次ぎ、二酸化炭素(CO₂)の排出量を減らせるレジ袋を導入する。環境負荷低減のための企業活動の一環で、CO₂排出量を五〜六割削減できる。ユニクロは十二月二十

一日から東日本の店舗に順次導入し、来年六月までに約七百三十店の全店に広げる。CO₂排出量は約九千八百トンから約四千二百トンと六割程度削減できるとしている。

特殊な添加剤を混ぜたポリエチレンを採用。薄くても強度を保てるためポリエチレンの使用量を削減できる。東京理科大学の阿部正孝教授らが開発

したナノ技術をベースに、環境ベンチャーのイーパーシック(東京・新

宿)が添加剤を開発した。一方、a m / p mは先行して二十二日から一部の店舗で導入を始めた。来春までに約千二百カ所の全店に広げる。ユニクロの袋と同じ技術を用いて